

5月



2025年

みやま

第324号

病院理念

『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針

「地域に根ざした安心できる医療」

「精神科医療の充実」

「老人医療」医療と福祉の結合

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



※尚、研修の様子についてはP5へ掲載しております。

令和7年度 新人職員オリエンテーションを行いました。

院長 平川 淳一

令和7年4月1、2日の2日間、新人職員オリエンテーションを行いました。今年の受講者数は合計25名で、その内訳は、医師1名、看護部14名、PSW2名、栄養科（調理員）3名、地域生活支援科（看護師）1名、ヒルズ職員1名、薬剤師1名、臨床検査技師1名、理学療法士1名です。このうち、外国人の職員は11名で、十分理解できない人もいたかもしれませんが、みんな一生懸命に聞いてくれました。平川病院の成り立ち、社会的な役割、組織運営、感染予防策、虐待防止を含めた精神保健福祉法や個人情報保護、ハラスメント、救命処置など、さまざまな委員会から講師が来てくれて勉強しました。これから、当院の理念である「患者さんの不安をとること」を胸に頑張ってくれると思います。どうかご期待ください。

【表紙】院長あいさつ 【P2】はちまるサポートとつながろう 参加報告
【P3】OT室プログラム紹介 【P4】（委員会紹介）褥瘡予防対策委員会
【P5】新入職者オリエンテーション報告 【P6】新任医師挨拶・編集後記

はちまるサポートとつながろう ～事例を通じて情報交換～ に参加して

地域生活支援科 作業療法士 犬井 良子

令和7年2月15日（土）八王子社会福祉士会第4回定例会はちまるサポートとつながろう～事例を通じて情報交換～に参加しました。

初めは、はちまるサポートの活動報告とはちまるサポーターの説明がありました。その後、はちまるサポートCSW（コミュニティソーシャルワーカー）ごとのグループに分かれ、事例を通してディスカッションを行いました。

はちまるサポートは年齢や性別、障がいの有無は問わず、各種関係機関と協力して困りごとの解決を目指す地域の福祉総合相談窓口です。八王子市内に13か所あり、専従の相談員であるCSWがいます。はちまるサポートの活動紹介の中に、はちまるサポーターの説明がありました。はちまるサポーターとは、課題をもって個人や家庭を発見し、はちまるサポートへとつなぐことで、地域から孤立することなく見守るボランティアです。令和6年度は、はちまるサポート10か所ではちまるサポーターの説明会が開催され118名の方が登録したそうです。

事例検討では、はちまるサポートで扱った事例を挙げ、それぞれのグループで意見を出し合いました。当事者の方は医療機関につながっていましたが、精神科疾患の特性、家族や友人関係、仕事や金銭管理、服薬等々、課題は複雑でした。ひとつの支援機関だけでは解決できず、支援者間で情報共有と協力が必要な事例でした。私のグループでは市外の方も参加しており、他の市町村によっては、はちまるサポートのような総合的相談窓口やはちまるサポーターの制度がないため課題のある人を円滑に支援機関につなげることが難しいと言っており、こういった支援体制の必要性を実感しているようでした。ただし、より深刻な問題を抱えた人は、周囲に支援を求めない傾向にあり、地域での発見が難しいのが現状です。このため、はちまるサポートのさらなる充実を図り、サポーターの登録者を増やすことで目の細かいネットワークの網を張り、こういった人たちを早期に発見できる支援体制の必要性を感じました。



OT室プログラム<IADLプログラム>のご紹介

作業療法科 科長 作業療法士 土屋 貴裕

人が日常生活を営むには、食事、排泄、着脱衣、入浴、移動などの基本的な動作、ADL（Active Daily Life：日常生活動作）に加え、買い物や洗濯、電話、服薬管理、金銭管理、趣味活動などといった、より応用的な動作・活動、IADL（Instrumental Active Daily Life：手段的日常生活動作）が必要と言われています。OTスタッフと一緒に、ご本人の希望される退院後の生活をイメージしながら、様々なIADLの練習に取り組んでいますので、その一部をプログラム担当者からご紹介させていただきます。

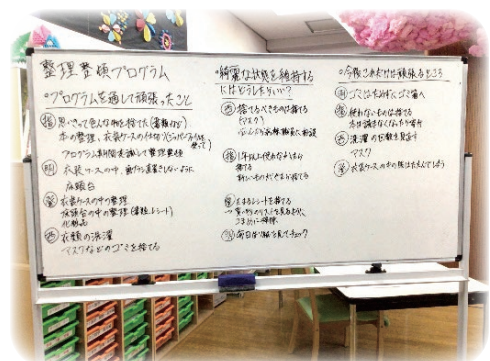
作業療法士 佐藤 花香

物を溜め込んでしまいやすい、部屋が散らかりやすいなど、整理整頓に課題がある方を対象に、『整理整頓プログラム』を実施しています。初回に整理整頓についての基本的な知識や必要性の確認、困りごとをディスカッション形式で共有し、2回目以降は、実際にお部屋に行き、優先順位をつけて整理整頓に取り掛かります。プログラム期間中は綺麗な状態を維持できていても、終了後もその状態を保ち続けるのは容易ではありません。ご自身だけでは難しい点については、“職員に相談する”といった手段も使いながら、身につけたスキルを日常生活で活かしています。

作業療法士 中筋 千裕

身だしなみに関連するプログラムとして、ご本人視点やスタッフ視点で身だしなみに課題がある方を対象に、『身だしなみプログラム（男性向け）』、『beauty（ビューティー）プログラム（女性向け）』として実施しています。身だしなみを整えることの必要性や、実施しないことによって起こり得るご本人への不利益などについて講義形式で確認し、その後、実践として、洗顔、整髪、爪切り、歯磨き、髭剃り、お化粧の正しい実施方法や頻度を学んでいます。ご参加された方の中には、それまでの清潔への意識が乏しい状態から、毎日継続して実施できるようになった方もいらっしゃいます。

今回はここまでとなりますが、これらのプログラムは、退院先の支援者の方に、ご本人が“できること”、“支援が必要なこと”をお伝えするツールともなり、ご好評いただいております。今後も、対象者のニーズに合わせて柔軟にプログラムを導入していきたいと思っています。



Series 委員会紹介 褥瘡予防対策委員会 です♪

褥瘡予防対策委員会 南2病棟 師長 木下 恵美

Q1 褥瘡予防対策委員会ではどのような活動をしていますか？

当院における褥瘡発生予防のために、褥瘡になりやすい方の把握と評価を行い、そのリスクを下げるために対策を行っています。また、褥瘡が新たに発生してしまったり、保有した状態で入院された場合は、病棟からの報告を受け、褥瘡回診を行い創部の早期治癒を目指して協議・対応しています。委員会を月に1回、褥瘡回診を月2回実施し、病棟からの相談を受けた際は必要に応じて臨時で褥瘡回診を行っています。

また、褥瘡対策も日進月歩の状況であり、企業の方の講義を院内で受けたり、外部の研修に参加し、新しい知識や技術を取り入れられる様に励んでいます。



委員会の様子

当院では多職種(医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療法士)が褥瘡回診に参加しています。



褥瘡回診の様子

Q2 委員会の構成メンバーはどのような職種、何名ですか？

医師1名、薬剤師1名、管理栄養士2名、理学療法士1名、各病棟（8病棟）の看護師と看護師長1名の全14名で構成されています。

Q3 委員としてやりがいを感じる時は？

上記の様に多くの職種が委員会に参加しています。医師が患者様を総括的に診て、薬剤師が創部に適切な薬剤が使用されているか、影響のある薬剤を内服していないかを確認し委員会で周知します。管理栄養士は患者様の栄養状態を確認し、その状態に合わせ必要な食事の選択をしています。理学療法士は患者様が正しい姿勢を保ち、褥瘡があればその部位を除圧できる様に適切な器具の使用等を考え、病棟看護師に周知しています。病棟看護師は褥瘡のリスクを評価表を用いてチェックし、他職種との連携を日々のケアで最大限活用し看護を提供しています。

入院中の患者様の褥瘡が治癒に至った場合、やはり24時間・365日ケアに当たっている看護師が一番喜びややりがいを感じると思います。その過程で、褥瘡予防対策委員も貢献できていることが私たちチームのやりがいに繋がっています。



当院では褥瘡等の難治性創傷治療として陰圧閉鎖療法(左写真機器)を用いています。

令和7年度 新入職者オリエンテーション レポート

病院教育委員会 作業療法科 主任 平本 美佳

令和7年4月1日、2日に平川病院新入職者オリエンテーションが行われました。今回は26名の方が参加し、平川病院の一員としてしっかりと学び患者様のために何ができるかを考える機会となりました。二日間にわたる密度の濃い研修でしたが、新入職の方々は真剣に傾聴し、実技では活発に、時に和やかに受講されていました。

また国際化も進んでおり、今年度入職の方の中には中国、インドネシア、ネパール等、様々な国の方々もいらっしゃいます。教育委員では事前に呼び名や愛称を共有し、わからない点や疑問点があればいつでも対応できるようにしつつ、早めに親睦を深める他己紹介を実施し、より交流が生まれやすい環境作りを行いました。そうしてグループワークでは盛んに言葉が交わされ、国は違えども食や趣味に共通点があったりと様々な話題で賑わっていました。

これからは新たな仲間を迎え更に平川病院を盛り上げていきたいと思いますので、皆様よろしくお願い致します。

他己紹介・グループワーク



PPE着脱の様子



拘束体験



医療の質グループワーク



BLSとAEDの実技訓練



CVPPP 研修



新任医師のご紹介

2025年4月から平川病院で勤務させて頂いております常泉 陽介と申します。東海大学医学部を卒業後、東京慈恵会医科大学附属病院にて初期研修を行い、その後同大学の精神医学講座に入局し、4年目を迎えました。これまでに大学病院を中心に、病棟管理や外来診療、他科と連携して行うリエゾン診療を学んで参りました。この度、アルコール病棟を中心に、急性期病棟も部分的に担当させて頂いております。

平川病院での勤務を開始してから約1か月となりますが、地域に密着し、原病の治療だけでなく、退院後の身体機能の維持・向上にむけたりハビリテーションも積極的に行っている現場を見て、日々感動しております。

スタッフの方々にも支えていただき、自らの未熟さを痛感致しますが、やりがいと責任感のある仕事に充実感を感じながら勤務あしています。まだまだ未熟さゆえ、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、精いっぱい邁進していく所存ですので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



常泉 陽介 医師

八王子市民のための発達障害支援 総合ポータルサイト

子どもから大人まで八王子市民が発達障害の支援サービス情報を包括的に取得できるサイトができました！

アクセスはこちらから



<http://hachioji-hattatsu.jp/>

編集後記

憲法記念日、みどりの日、こどもの日と大型連休のある5月、国内外問わず、旅行に出掛けたくなる季節です。都内下町では、日本三大祭りの1つ『神田祭』や『三社祭』が催され、盛り上がりを見せています。お祭りでは欠かせない神輿、最近では全国的に担ぎ手不足が深刻化しているといえます。要因として、少子化問題に加え新型コロナの影響が拍車をかけたようです。伝統を受け継ぐ後継者問題や人材不足といった課題が医療業界同様、観光業にも直撃し、人材確保に向けた対策が急務です。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076

電話 042-651-3131

FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします

kouhou@hhsp1966.jp

